

独立行政法人水産大学校の平成 16 事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され、独立行政法人評価委員会による平成 16 年度の総合評価が「A」評価であったこと等を踏まえ、役員交代等は行っていない。
----------	--

2. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	16 事業年度評価における主な指摘事項等	平成 17 及び 18 年度の運営、予算への反映状況
業務運営の効率化に関する目標を達成するためとすべき措置	<p>水産学研究科に、「情報」・「経営」に関わる科目が必要である。</p> <p>水産政策・流通などの専門家はグローバルに必要であり、国際的にも役立つ人材育成のカリキュラムの充実を期待する。</p>	<p>新たに、水産技術管理学専攻・漁業技術管理学専攻分野に、水産情報経営学科の専門に対応する小分野（水産管理学）を設置し、教育内容を充実させた。</p> <p>18 年度入学生のカリキュラムから、新設科目として「水産経営管理システム論」と「養殖経済論」（いずれも 3 年生）を導入した。</p>
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置	<p>さらに充実した専攻科教育に取り組むことを期待する。</p> <p>いわゆる環境問題への対応等、漁業を取り巻く環境は多様化、複雑化している。従来の研究のカテゴリーを超える取り組みが必要である。</p>	<p>新入生オリエンテーション及び実用韓国語教育の充実を図った。また、平成 18 年度入試より、海技士免許取得をめざす者を対象とする推薦入試 C 制度を新設した。</p> <p>第 2 期の研究課題を設定する際に、研究内容が、漁業を取り巻く最新の状況等を踏まえたものとなっているか等に留意して見直しを行った。</p>
予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画	引き続き経費の削減への努力を期待する。	（計画に基づく前年度比 1% の経費節減に加え）競争契約による教育・研究機器購入費の節減、仕様の見直しによる精密機器維持費の節減に努めた。